



時空大血闘! / Doctor Who and The Time Monster (1964) / デイヴィッド・ホイティカー (原案) / 早川書房 (訳) / 3/31刊・¥300

ドクター・フーは、イギリスのBBC放送で、十七年間続いている大長寿番組である。

一見、警察専用電話ボックスという、「タルデイス」を駆り、時空間を自在に飛翔する、怪人ドクターの冒険シリーズだ。

日本では放映されていないから、まずオリジナル版でご存じの方は、少ないだろう。しかも、翻訳もかなりややこしく、第一巻の、『時空大血闘』が十六年前の作品、(訳出の都合もあって)二巻目『オートン軍団の襲来』が、その十年後のものになっている。著者も違えば、主人公のドクターを除く登場人物も違う。テレビドラマなのだから、十年もたてば、俳優も替わるわけで(主演が交替している)、それも影響している。

ノヴェライゼーションには、それなりの楽しみようがあるだろう。それも、オリジナルの映画なり、コミックなりがあつた場合は、であるが。たしかに、円錐状のロボット「ダレク」や、プラスチックのマネキン「オートン」など、悪役のキャラクターは面白い。けれども、やはり原作あつてのノヴェライゼーションだろう。これだけを読んでも、残念ながら、いまひとつである。(俊)